

資料4(別添様式)

番号	1	令和4年度公共事業事後評価調査				担当課名[農地整備課]	
事業名	農道整備事業			事業主体	静岡県		
箇所名	エンシユウモリマチ 遠州森町			市町名	袋井市 周智郡森町		
事業概要							
事業の目的・必要性	<p>本地区は、農業の振興と農村環境の改善を図るため、農道網の基幹としてS48年からH11年を工期として整備された広域農道のうち、袋井市及び森町の区間を計画路線としている。</p> <p>本路線は、供用開始から複数年が経過し、交通量の増加や経年劣化に伴い道路の平坦性が損なわれるとともに、緊急輸送路の迂回路に位置づけられており、農道橋の耐震対策が必要である。また、遠州森町スマートICが開設され、交通量の増が見込まれることから、道路の舗装補修と橋梁の耐震化を実施し、農産物等の輸送に係る走行経費の節減と通行車両の安全確保を図る。</p>						
受益面積	1,980ha	採択年度	平成24年度	完了年度	前回 実績	平成28年度 平成28年度	
事業量	舗装補修工：10,040m 橋梁耐震工：橋梁耐震工1式						
施設の利用状況や被害軽減効果 等							
前回	事業費 1,250百万円	事業期間 平成24年度～平成28年度	施設の利用状況や被害軽減効果 等 H24交通量調査結果：5,327台/12hr（計画）		B/C：1.73 EIRR：-		
事後	事業費 1,226百万円	事業期間 平成24年度～平成28年度	施設の利用状況や被害軽減効果 等 R03交通量調査結果：5,439台/12hr				
差	事業費が24百万円減 (1.9%減)	事業期間 計画どおり	施設の利用状況や被害軽減効果 等 交通量の増：+112台/12hr				
<ul style="list-style-type: none"> ・事業費、事業期間 工事費の精査および請負差金による減 事業期間の増減なし ・施設の利用状況や被害軽減効果 等 計画交通量と同等の交通量を計測 ※交通量調査結果（計画（H24））：5,327台/12hr → 事後：5,439台/12hr+112台/12hr 計画走行速度と同等の走行速度を計測 ※遠州森町地区と市町道（う回路）の走行速度調査の結果による 走行速度調査結果（市町道（う回路））：28km/hr 遠州森町地区：40km/hr+12km/hr 							
事業の効果の発現状況							
<p><食料の安定供給の確保に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道の更新整備により農道機能が維持され、走行時間の短縮が図られた。 営農に係る走行経費節減効果：143,183千円/年 → 124,416千円/年 △18,767千円/年（13.1%減） <p><農村振興効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道の更新整備により一般交通機能が維持され、走行時間の短縮が図られた。 一般交通等経費節減効果：2,965,015千円/年 → 2,028,856千円/年 △936,159千円/年（31.6%減） 							
事業により整備された施設の管理状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・農道は、施設管理者である袋井市及び周智郡森町が、適正に管理している。 ・農地は、ふじのくに美農里プロジェクト活動組織や美しく品格のある邑に登録された地域が、維持保全活動を行っており、適切に管理されている。 <p>※美農里活動組織：5組織、美しく品格のある邑：6地域 ※美農里活動組織と美しく品格のある邑は重複あり</p>							

事業実施による環境の変化

- (1) 農業生産力の強化について
- ・地域の物流の基幹となる農道の整備により、農作物の生産に必要な資材や農産物の輸送、通作などの農業交通に係る走行経費が節減され、水稻やレタス、スイートコーン、茶等の多彩で収益性の高い農作物の生産や輸送が行われている。
 - ・農道網の利便性を活かし、水稻の大規模経営体は、大型のトラクターやコンバインによる効率的な営農を実施するとともに、袋井市下山梨では、スマート農機の直進アシスト機能付き田植え機が導入され、更なる営農の効率化が期待されている。
 - ・森町では、これまでに、区画整理や暗渠排水の整備により、水田を汎用化し、水稻、レタス、スイートコーンを輪作する生産性の高い営農体系が確立され、代表的な農業経営体の販売額は、約2億円に増加している。
 - ・森町は、明治10年に茶商組合が設立され、昭和初期から茶の集散地として栄えており、これらの地域に根ざした茶商が、小國神社近隣に「ことまち横丁」を開設し、集客、PRするとともに「森の茶」ブランドの価値を高めることにより、地域茶業の振興が図られている。
- (2) 農村生活環境の変化について
- ・複数のふじのくに美農里プロジェクト活動組織や美しく品格のある邑に登録された地域により、農業用施設の管理に加え、地元小学校や地域住民との収穫体験やコスモスやひまわりの植栽、田んぼの生き物調査等、アイデア豊富な手作りのイベントが開催され、地域内、世代間の交流が深まっている。

社会経済情勢等の変化

- (1) 地域社会の動向
- ・人口の減少とともに、受益地である袋井市及び周智郡森町の販売農家数※は、26.9%の減となり、平成27年の1,273戸から令和2年は930戸ととなる一方、農産物の販売金額が1千万円を超える販売農家の割合は、21.1%から26.8%に増え、経営面積が10haを超える販売農家も69戸を数えている。
 - ※2015農林業センサス及び2020農林業センサスによる
 - ・大規模な水田経営や、レタスやスイートコーンなどの高収益作物の生産など多様な営農を行う法人経営体が誕生し、農業の生産額の増に寄与している。(佐野ファーム、鈴木農園等)
 - ・農業者の高齢化、後継者不足が懸念されることから、人・農地プランの実質化により、地域の中心となる農業経営体を明確にし、担い手への集積促進に取り組んでいる。
- (2) 地域経済の動向
- ・受益地である袋井市及び周智郡森町の総生産額※は、平成26年から平成30年まで14.6%の増となるとともに、農業の総生産額は51.79億円から11.4%増の57.7億円となり、地域経済の持続的な発展が進んでいる。
 - ※令和3年度経済活動別市町内総生産による
 - ・本県の高速道路IC別出入交通量が、平成26年には日当たり3,649台、令和元年には日当たり4,690台と利用台数が増加している。本地区に隣接する新東名遠州森町スマートICの出入交通量は、日平均777台から87.5%増の1,457台となり、近隣の森掛川ICや袋井ICとともに、高速度道路網による観光、物流等の活性化が見込まれる。
 - ※高速度道路インターチェンジ別出入交通量による

対応方針（案）

- (1) 評価結果
- ・効果は十分に発現されており、改善措置の必要はない。
 - ・農道の舗装補修と橋梁の耐震化を実施し、農産物等の輸送に係る走行経費の節減と通行車両の安全確保が図られたことにより、地域の農業振興や農村環境の改善に寄与している。
 - ・災害等の緊急時には緊急輸送路として位置づけられていないものの、新東名森町スマートICと東名袋井ICをつなぐ広域農道であることから、同等の役割を担うことを期待されている。
 - ・本整備により基幹となる農道網が維持され、地域経済の活性化や多彩な農作物の生産の維持、農業の生産額増が図られた。
- (2) 今後の課題等
- ・今後、これまでに造成した施設が更新時期を迎えることから、補修・更新に係る費用の確保や老朽化に伴う機能損失が懸念されるとともに、大規模地震など近年の自然災害の頻発化への対応が不可欠である。
 - ・人口減少や高齢化の急速な進行に伴い、集落機能の低下が危惧されることから、地域課題の解決や地域づくりに関わる人や企業、大学など、多様な関係人口を拡大することが求められる。
- (3) 同種事業への反映等
- ・本地区は、農道の舗装補修と橋梁の耐震化を実施することにより、農産物等の輸送に係る走行経費の節減と通行車両の安全確保が図られた。
 - ・農道は、昭和40年代以降に整備された路線が多いことから、施設を管理する市町と連携のうえ、更新整備や耐震化対策を計画的に実施することにより、地域農業に不可欠な道路機能の維持に努めていく。

農道整備事業 遠州森町 地区 位置 図

S=1:50,000

県内位置図



事業区間 延長10.04km

凡	例
	受益地
	事業区間
	高速道路
	県道

●事業の効果の発現状況

営農に係る走行経費節減効果、一般交通等経費節減効果

- ・農道の更新整備により農道や一般交通の機能が維持され、走行時間が短縮



■ 営農に係る走行経費節減効果

■ 一般交通等経費節減効果



●事業により整備された施設の管理状況

- ・農道は、施設管理者（袋井市，森町）が適正に管理
- ・農地は「ふじのくに美農里プロジェクト」活動組織や「美しく品格のある邑」登録地域が維持保全



●事業実施による環境の変化

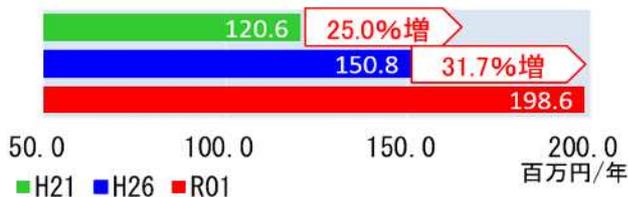
農業生産力の強化

- ・大規模経営体（水稲）による営農と「森の茶」ブランドによる地域茶業の振興



- ・水田を活用した生産性の高い営農体系

■ 代表する中心経営体の販売額推移



●事業実施による環境の変化

農村生活環境の変化

- ・複数の活動組織や地域により、コスモスやひまわりの植栽、田んぼの生き物調査、餅つき体験等、様々なイベントが開催され、地域内、世代間の交流が深まる



コスモスの植栽



田んぼの生き物調査



餅つき体験

●社会経済情勢等の変化

地域社会の動向

- ・販売農家数は減少する一方、販売金額1千万円以上の農家の割合は増加

■農業者戸数（袋井市，森町）



■農産物販売金額規模別経営体数（袋井市，森町）



- ・大規模な水田経営や、レタスやスイートコーンなど多彩な農作物を生産する経営体が誕生
- ・人・農地プランの実質化により、地域の中心となる農業経営体への集積を促進



出荷作業(スイートコーン)



販売状況(スイートコーン)



農地集積の話合い

地域経済の動向

- ・農業の総生産額は11.4%増となり、地域経済が持続的に発展



茶販売店によるブランド茶販売

■農業総生産額（袋井市，森町）



- ・新東名遠州森町スマートIC等の出入交通量の増により、観光、物流等が活性化



遠州森町スマートIC

■新東名高速道路IC別交通量（遠州森町，森掛川）

